

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

事業名称	令和7年度よこはま夢ファンド組織基盤強化ワークショップ事業	
事業の実施者	団体等	一般社団法人ソーシャルコーディネートかながわ
	行政	市民局地域支援部市民協働推進課 (現：行財政局共創・ファシリティマネジメント推進室共創推進課)
事業の目的	よこはま夢ファンド組織基盤強化支援事業の一環として、NPO法人の組織基盤の安定や強化を図るために、法人の抱える顕在的・潜在的な課題を抽出し、今後の組織基盤強化のための取組につなげ、市民公益活動の活性化へ資することを目的とする。	
事業の内容	組織基盤強化ワークショップの企画・実施、事業実施に伴う広報 等	
役割及び責任分担等	別紙のとおり	
実施期間	令和8年1月23日～令和8年3月31日	

記入日	令和8年6月4日
記入者	[団体等] ・団体等名： 一般社団法人ソーシャルコーディネートかながわ ・記入責任者 氏名： 代表理事 手塚 明美 連絡先： 070-6460-2221
	[行政] ・部署名： 行財政局共創・ファシリティマネジメント推進室共創推進課 ・記入責任者 氏名： 市民協働推進担当課長 宮島 大輔 連絡先： 045-671-4734

(別紙)

役割及び責任分担等

事業項目	受託者の役割	委託者の役割
組織基盤強化ワークショップの企画	1 当該ワークショップの企画 2 講師の選定及び連絡調整	1 当該ワークショップの企画協力 2 事例紹介者の選定及び連絡調整 3 横浜市役所内の連絡調整及び会場の提供 4 当該ワークショップ受講申込フォームの作成及び受講申込受付 5 組織診断アンケートの作成及び回答集計 6 組織診断アンケート受講にかかる団体との連絡調整
組織基盤強化ワークショップの実施	1 当該ワークショップの運営 2 当該ワークショップの講師・ファシリテーター・進行等	1 当該ワークショップの運営補助 2 事例紹介者への謝金支払 3 受講後アンケートの作成及び集計
事業実施に伴う広報	1 当該ワークショップの広報物の作成及び印刷 2 受託者の独自のネットワークを活用した広報	1 本市媒体（ホームページ、登録団体へのメール配信等）による広報 2 本市施設へのチラシ配架
事業報告	1 記録及び報告書の作成	1 報告書の受領及び確認

2 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

①事業計画段階

		団体等	行政
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	A	A
2	お互いの立場や組織の違いを話し合ってよく理解することができましたか。	A	A
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合って決めることができましたか。	B	B
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合っ役割分担を決めることができましたか。	A	A
5	会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合っよく理解することができましたか。	A	A
6	事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	A

②事業実施段階

		団体等	行政
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	A
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	A	A
3	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	A	A
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	A	A
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	A	A
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	B	B
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	A

③ふりかえり段階

		団体等	行政
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合っ共有できたか。	A	A
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合っ確認することができたか。	A	A
3	これまでを振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができたか。	A	A
4	期待された事業成果を得られることができたか。	A	A

3 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

事業の計画づくり及び事業実施 (協働して事業計画をつくるにあたり、また協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと】 <ul style="list-style-type: none">・NPO法人の団体運営や支援についての専門的な知識や実践的な視点と、行政的な視点からの考えなど、両方で意見交換しながら内容を計画することで、より効果の高い事業とすることができた。・協働して事業を実施することで、それぞれが持っている広報手段やネットワークを活用し、参加者を募集することができた。・メール等で定期的に連絡を取り合うことで、情報共有を円滑に行うことができた。・受託者が有する市民活動団体支援の専門性と、委託者が有する庁内外との調整機能を活かし、それぞれの強みを補完し合いながら事業を実施することができた。・契約に基づく役割分担(受託者による企画・運営、委託者による募集・会場手配・庁内調整等)をもとに、双方が主体的に役割を果たすことで、効率的かつ円滑に事業を進めることができた。
【今後改善が必要と思われること】 <ul style="list-style-type: none">・本ワークショップの参加を組織基盤強化助成金の申請条件の一つとしているため、参加団体のモチベーションに差があり、また抱える課題も多様であることから、参加団体にとってより有意義な内容とするために、目的・目標の再整理が必要である。・組織基盤強化助成金制度における本ワークショップの位置づけや、制度全体の流れについて、計画当初からより丁寧に共有することで、参加団体の理解促進につなげることが望まれる。・役割分担自体は明確であったが、事業全体の目的や成果イメージについて、より初期段階から相互にすり合わせを行うことで、さらに一体的な事業設計とすることができる。
事業の成果 (協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。)
<ul style="list-style-type: none">・事前セルフチェックとして実施した組織診断の結果の可視化や、実際に組織基盤強化助成金を活用した団体の事例発表により、NPO法人の組織基盤とはどのようなものか、また組織基盤強化においてどのような取組を行うのかについて、参加前と比べて、より具体的なイメージを持てるようになったと考えられる。・グループワーク内で、自組織の組織運営上の強みや課題を他者に説明することを通して、課題意識がより明確になったと考えられる。・参加された12団体のうち5団体より次のステップである自己評価への応募があった。
自由記入欄